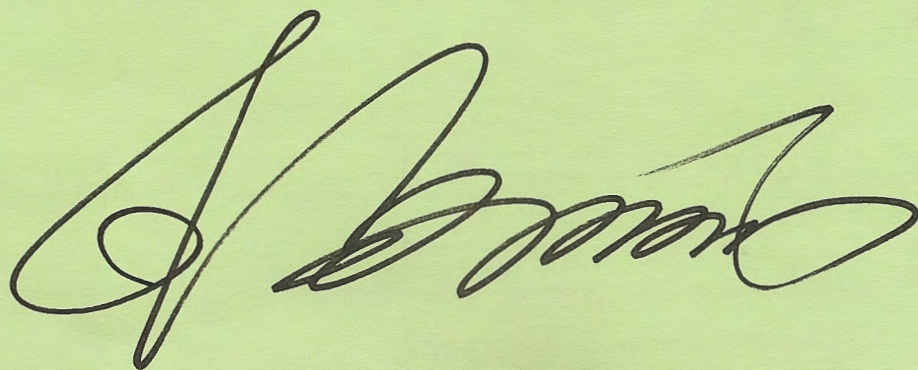


ショパンの生涯

～ショパンの名曲でその生涯の真相に迫る～

ピアノ／一世 (issei)

[ゲスト] 佐々木雄大 [調律] 遠藤信和



2016年 5月 8日 (日)

太白区文化センター 展示ホール

主催:ぴあの倶楽部くらしっく

— Program —

《第1部 ワルシャワ時代～パリ到着直後の青年期》

- ◆ 春 (作曲者によるピアノ独奏版)
- ◆ マズルカ 第2番 Op. 6-2
- ◆ ショパンの姉ルドヴィカと「遺作のノクターン 嬰ハ短調」
- ◆ ノクターン第2番 Op. 9-2
- ◆ ショパンのピアノ技術…エチュード (練習曲集) より
 - * Op. 25-1 「エオリアン・ハープ」
 - * Op. 10-11 (左手バージョン)
 - * Op. 25-12 「大洋」(左手バージョン)
- ◆ エチュード Op. 10-12 「革命」
- ◆ バラード第1番 ト短調 Op. 23

— 休憩 —



—世 (issei) 氏のピアノで歌いませんか？

—世 (issei) のピアノで歌う童謡・唱歌の会

季節ごとの童謡・懐かしい唱歌思い出のあの歌の数々を迫力のピアノ伴奏でたっぴりと歌いましょう！
歌にまつわるウラ話も聞けてしまう和気あいあいとした楽しい時間。ぜひ一度お誘い合わせの上ご参加下さい！

- ◆ リーダー(指導)・ピアノ 一世(issei) [ピアニスト・作曲家]
- ◆ 会費 1,000円
- ◆ 開催日 月1回 第2土曜日 (月によっては変更になることもございます。)
 - 6/11(土) 太白区文化センター 展示ホール
 - 7/9(土) 太白区文化センター 展示ホール
 - 8/27(土) 日立システムズホール仙台 練習室1

お問い合わせ TEL 022-398-5447 FAX 022-398-5448 E-MAIL info@pianoclub-classic.com

《第2部 パリ時代～マリアとの婚約破談～恋人ジョルジュ・サンド～晩年》

- ◆ ノクターン 第5番 嬰へ長調 Op. 15-2
- ◆ ワルツ 第9番 変イ長調 Op. 69-1 遺作 「別れのワルツ」
- ◆ プレリユード 第15番 変ニ長調 Op. 28-15 「雨だれ」
- ◆ 英雄ポロネーズ 変イ長調 Op. 53
- ◆ 舟歌 嬰へ長調 Op. 60
- ◆ 小犬のワルツ 変ニ長調 Op. 64-1
- ◆ マズルカ ト短調 Op. 67-2 (ショパンの絶筆)
- ◆ 葬送行進曲 (ピアノソナタ第2番/第3楽章より)
- ◆ 別れの曲 (エチュードOp. 10-3/左手バージョン)

※ 上記の曲の他、断片的に様々なショパンの曲が登場します。

[ゲスト] 佐々木 雄大 / Yuta, Sasaki

宮城県仙台市出身。常盤木学園高校音楽科を経て、上野学園大学ミュージック・リサーチコース(音楽学専門)を首席卒業。

高校在学時からピアノやコントラバスでアンサンブルを中心に演奏活動を行う。仙台ジュニア・オーケストラではコントラバスを担当。大学はピアノ科で進学したものの、直後に右手を神経病(筋ジストニア)に冒されたため左手のみの演奏スタイルに転向。3年次からはミュージック・リサーチコースに転科して左手ピアノ作品の研究・演奏に従事するとともに、ヴィオラ・ダ・ガンバ(古楽器)も開始。また学内オーケストラではコントラバスを担当した。

4年次在学中の本年1月30日に地元仙台(太白区文化センター)で行われた仙台デビューリサイタルでは、ブラームスやリスト、ゴドフスキー、アルカン、スクリャービン、ライネッケ等の難曲左手作品を演奏し、満員の観客を驚嘆させた。アンコールでは自作の左手ピアノ曲『Alte - Wien /ゴドフスキー: トリアコンタメロン第11曲“古きウィーン”左手用編曲』を披露している。

大学卒業後の4月より仙台にて演奏・作曲活動。オルガンとカンタータの会(仙台宗教音楽研究会)合唱会員。

ピアノを阿部章子、尾形牧子、柳澤美枝子、一世(issei)の各氏に、声楽を千葉昌哉氏、ヴィオラ・ダ・ガンバを櫻井茂氏に師事。

日本演奏連盟会員。

◆ 一世 (issei) / プロフィール ◆

モスクワ音楽院・大学院博士課程ピアノ独奏科修了。芸術学博士。

9歳で「若い芽のコンサート」に出演し、プロコフィエフ・ピアノ協奏曲第3番を演奏。(山本直純指揮：新星日本交響楽団)

18歳で国際ピアノオーディション「レ・プレリュード・コンセール」に最年少合格し、バッハ：ゴルトベルク変奏曲全曲とブラームス：パガニーニ変奏曲全2巻を演奏。

以来、日本全国や海外(旧西ドイツ・フランス・スペイン・ポルトガル・旧ソ連カザフ共和国・ハンガリー・チェコスロバキア・旧ユーゴスラビア・英国・米国・カナダ・メキシコ・ブラジル・アルゼンチン・ウルグアイ・台湾・オーストラリア・シンガポール他)にて演奏活動。

1992年、27歳～38歳までの国際コンクール・国際オーディションの優勝・入賞経験者のみで行われる第1回・モスクワ国際マスターズ・ピアノ・オーディションに最年長でエントリーし、36ヶ国213名のピアニストの中から第1位／最優秀賞を受賞。直後からモスクワ音楽院・大学院博士課程に入学(ロシア共和国文化省招待留学生)し、エフゲニー・マリーニン主任教授のクラスに在籍して、指導アシスタントを兼務する重責を任される。

1994年、音楽院ピアノ教授会満場一致の推薦を受けてモスクワデビュー。外国人留学生による大学院在籍中のモスクワデビューは、ラドゥ・ルプー(ルーマニア)、ダン・タイ・ソン(ヴェトナム)、イヴォ・ポゴレリッチ(旧ユーゴ)に続いて4人目、邦人では初の快挙だった。同年、国家演奏家資格(邦人初)・芸術学博士号(モスクワ音楽院)を得て帰国。

以来、演奏・指導活動に戻るとともに国際ピアノコンクールの審査員としても招聘され、コンツェルディーノ・プラーガ国際青少年(チェコ/プラハ)、スクリャービン(ロシア)、バッハ(独/ライプツィヒ)、ヴィオッティ(イタリア)、ナディア・ブーランジェ国際室内楽、ロン＝ティボー(仏/パリ)、ヴィアンナ・ダ・モッタ(ポルトガル/リスボン)、モンテヴィデオ(ウルグアイ)、アジア国際青少年(シンガポール)、その他多くの国際ピアノコンクールの審査員を勤める。

井口基成、安川加壽子、園田高弘、レフ・オボーリン、アダム・ハラシェヴィッチ、イングリット・ヘブラー、タチアナ・ニコラーエワ、ヴラディーミル・クライネフ、レフ・ナウモフ、エフゲニー・マリーニンの諸氏にピアノを、池内友次郎氏に作曲理論と管弦楽法を師事。

日本演奏連盟会員。